

いこいの村

渡辺 睦

題字 梅の木寮（ユニット型）

2012年（平成24年）2月20日発行

第357号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

～いつも笑顔で過ごせるようにと

人の心をつなぐ「いこいの場」～

【綾部東部デイサービスセンター】



2回半ほど回して飲むんやな（初釜）



負けんと頑張れよ（紙相撲大会）



ここに置いたら良いなあ（オセロ）



真っすぐ切らなあかん（木工作業）

デイサービスで
一緒に過ごして
みませんか？

ご自宅をはなれて、いつもとは違う時間や空間で気分転換。さまざまな地域から多くの人が集い、会話に花を咲かせ、レクリエーションやゲームを行うことでお互いに交流を楽しまれています。

綾部東部デイサービスセンターは、ご利用者同士だけでなく、ご家族、介護職員、地域の方など、デイサービスに集う人と人との出会いを大切にしています。また、皆様が楽しみにされていることや望まれていることなどを一つ一つ形にしながら皆様と共に進めています。

「もう帰る時間か。早いなあ」と、楽しい時間を過ごしていただけるよう努めてまいります。今後デイサービス利用を希望される皆様、まだお若い方々もぜひ、「いこいの村のデイサービス」をご利用ください。

（高齢福祉部デイサービス係

谷垣 毅）

今日は「特別」！



栗の木寮の

スペシャル誕生会

「一月生まれのみなさん。おめでとーございます」

「かんぱーい」

一月九日、いこいの村の集会室を貸りきって、一月生まれの仲間（利用者）の誕生会を開催しました。

栗の木寮の誕生会は、誕生月の仲間が自分の食べたいものをリクエストして、希望に合わせた食事を楽しめます。

メニューを即決される仲間、料理本を見てじっくりと考えて一品を決められる仲間、と選び方はさまざまです。中には、メニュー相談日にチラシを持って来て、「これ、これが食べたい」とアピールされる

方もおられます。誕生会の日を楽しみに待っていたことがよく分かる一場面です。



一月生まれの仲間は、十名と多く、「すき焼き」「焼きそば」「寿司」……と、希望もさまざまで、迷いながらもできるだけ多くの希望を取り入れたメニューに決まりました。

時間をかけて相談した分、誕生会のイメージが深まり、誕生会が待ち遠しくなります。「メニュー」だけじゃない！

毎月一回の誕生会では、食べたいメニューと、会場を誕生月の仲間同士で決めて、自分たちの誕生会を計画します。「いこいの村でのんびりと会を開きたい」「外食したい」「外食した後は、スーパーで買い物したい」など、話に花が咲きます。

月ごとに誕生会の持ち方はさまざまで、その月の仲間の個性がよく出ています。



見て見て！さぁ 食べるぞ～！！

他の月の誕生会のようすを写真で見て、自身の誕生会の参考にしよう……など、想いを巡らせている仲間もたくさんおられます。

誕生日は、あなたが生まれた特別な日

栗の木寮では、誕生会のある方をいろいろと形を変えて工夫してきました。

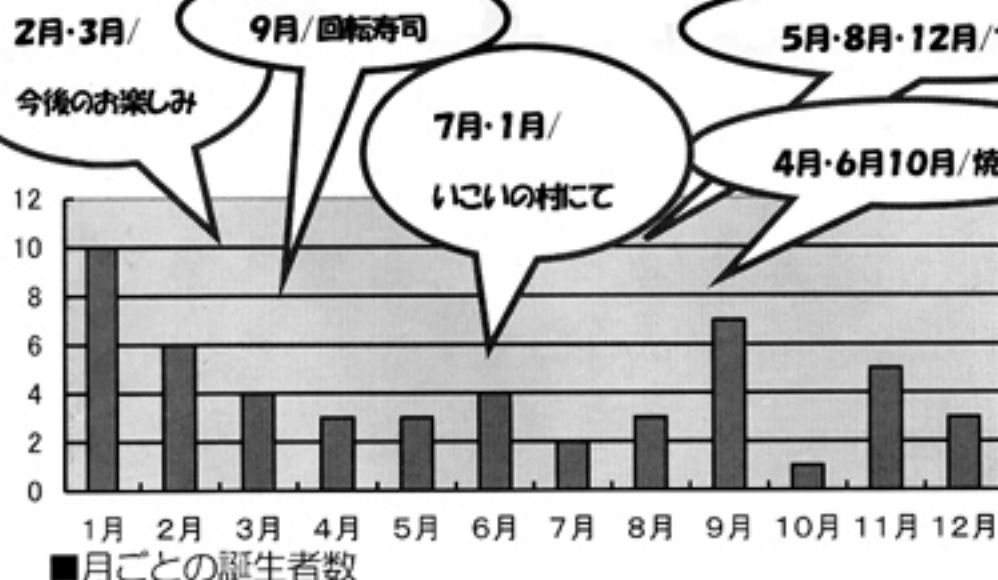
初めは、栗の木寮食堂にて、仲間全体で誕生月の仲間のお祝い会をしました。その後、『選ぶ』ことを重視した、現在の形へと変化をしています。

どの方法が一番良いということではなく、どの方法でも、仲間が自身の『誕生日』を『特別な日』と感じてもらえるような会をこれからも続けていきたいと思っています。

（いこいの村・栗の木寮 菅井 奈津子）



2012/1/9



2月・3月/
今後の楽しみ

9月/回転寿司

7月・1月/
いこいの村にて

5月・8月・12月/ファミレス

4月・6月10月/焼肉

防災の豆知識



昨年三月十一日に発生した東日本大震災。これを機に今防災に対する意識が高くなっています。災害の種類はさまざまです。津波、河の氾濫(はんらん)、山崩れ、がけ崩れなど…。防災の第一歩は、自分の住んでいる地域がどのような災害に遭う可能性があるかという危険の予測です。それを踏まえて、防災訓練などで避難経路や避難方法を確認することが大切です。実際に災害が起こった時に混乱することのないように、繰り返し防災訓練を行うことはとても重要です。

☆地震の場合



地震の揺れは長くとも一分位といわれています。慌てて外に飛び出さず座布団などで

頭を保護したり、丈夫な机の下に身を隠し揺れがおさまってから避難しましょう。避難の時は、できればガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを切りましょう。これは地震時に一番恐ろしい火災を防ぐ対策です。逃げるときは徒歩で周りの人たちと声を掛け合って避難しましょう。

☆台風の場合



いきなり来る地震と違い少し余裕がありますが、テレビやラジオなどで正確な情報を聞き、早めの対策が必要です。台風は一般的に進路に対して右側は風が強く、左側は雨が強くなります。風の対策として植木鉢や物干し竿など飛びやすいものは室内にしまつか固定しましょう。必要なのは自治体の定めた避難場所に避難しましょう。後は停電に備えて懐中電

灯・携帯ラジオの準備や避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備なども必要です。

防災は住んでいる地域によりさまざまです。自分の住んでいる地域の特性をよく理解して防災訓練などを通じて地域に合った防災マニュアルを作ることが重要です。(各自治体が作成した防災ハザードマップなど)

災害はいつ自分に降りかかるかわかりません。だから普段から災害に対して高い意識を持ち備えることが大切なのです。

世間の防災意識が高い今、いこいの村での防災避難訓練でも再度中身を練っています。

(いこいの村・防災委員

西村 隆史)



いこいの村
聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

緊急災害対策の強化を

二月二日の大雪は舞鶴市で観測史上最高の積雪を記録するなど、各地で雪による影響が生じました。

大雪警報が出されたことから、いこいの村でもアイサービスの利用を中止して、一人暮らしの方を中心に状況確認を行うと共に、一日中施設周辺や駐車場の雪かきに追われました。また、翌日に早朝出勤の職員や雪道の運転に慣れていない職員は、桃の木寮に泊まり込む等の対策を取りました。

京丹後市、与謝野町、舞鶴市の各地域活動支援センターでも大雪警報が出されたことから、安全を考慮して利用を中止しました。そして安全確認が必要な方には、ファクス、メール、テレビ電話を活用したり、直接訪問して状況を確認しました。

幸い北部の聴覚障害者の中に大雪で孤立したり、事故にあわれたという報告はありませんでした。

各地で様々な災害が発生している折、大雪、大雨等による自然災害や、地震災害、原子力事故等における被害をできる限り少なくするには、日頃からの備えが大切です。いこいの村や北部の各センターが聴覚障害者や住民の方々にとって安全安心の拠り所となるため、常に取り組みの点検に心掛けています。そのため、今回の大雪に際して、利用者地域の方々、職員の安全確保について、どのように対応したのか、そして教訓は何かを整理し、緊急災害時の対策を強化して参ります。



利用者も、雪かきをしました。

